

◆巻頭特集◆ ユネスコの無形文化遺産に登録!

長浜 曳山祭

昨年12月にユネスコの無形文化遺産に登録された長浜曳山祭。今年の祭りは11年ぶりに全13基の曳山が勢ぞろいして、世界に認められた名誉を盛大に祝います。登録に向けて、地元ではどのような活動が行われてきたのか、これまでの道のりを振り返りました。

400年以上前から続く 国の重要無形民俗文化財

京都府の祇園祭、岐阜県の高山祭と並び、日本三大山車祭の1つに数えられている長浜曳山祭。毎年4月に長浜八幡宮の例祭として

山祭ユネスコ無形文化遺産登録推進会議」を立ち上げ、ユネスコ登録に向けたさまざまな活動をしてきました。「まずは、あらためて若衆に祭りについて学んでもらうことから、外部に向けて情報を発信し、祭りの認知度を上げていく。この2本が活動の柱でした」と話すのは、長浜曳山文化協会伝承委員会の委員長を務める家森裕雄さん。

ユネスコ登録がもたらす内容をわかりやすく伝えるとともに、祭礼におけるしきたりなどを解説。長浜市立西中学校の生徒による琴の演奏、長浜市立長浜小学校合唱団によるユネスコ登録推進ソング「愛する長浜」の合唱などが披露されました。

活動の集大成となったのが、10月末に開催された「日本の祭りinながはま2016」。全国からさまざまな地域伝統芸能団体が集結するとともに、「秋の長浜曳山祭」と題して長刀組太刀渡りや子ども歌舞伎を特別に披露。イベントに集まった多くの人に向けてユネスコ登録に向けた意欲をアピールしました。

今年全13基の曳山で盛大なお囃子を演奏 ユネスコ登録が決定したのは12月1日の未明。夜が明けた朝の8

いにぎわいます。祭りの始まりとされているのは、今から400年以上前の安土桃山時代。長浜城を築城して城主になった羽柴秀吉(後の豊臣秀吉)が、初めての子ども誕生を祝い、城下の人々に金を振る舞ったのがきっかけでした。金を授かった町民は、これを資金にして12台の山車を製作。長浜八幡宮の祭礼で曳き廻しを始めたことが、祭りの起源と伝わっています。

ユネスコ登録に向けて 数々のイベントを開催

長浜曳山祭を含む全国33の国指定重要無形民俗文化財が、文化庁によって「山・鉦・屋台行事」としてグループ化され、ユネスコの無形文化遺産に提案されたのは平成26年3月(ユネスコの審査件数に関する国際ルールに基づき、翌年3月に再提案)。



ユネスコ登録を祝った記念祝賀行事が開催されました。

会の小池充さんが話すように、親から子へ大切に伝えられてきた地域の宝です。ユネスコに登録され、世界の宝として認められた今年、観光客だけでなく、地元の人も足を運んでほしいと続けます。盛大なお囃子と13基の勇壮な曳山を見れば、あらためて地元・長浜に誇りを持てるでしょう。



1. 紋付き袴で正装した山組関係者が扇子を打ち振りながら長浜八幡宮に参拝しました。2. 笛や太鼓などで囃子を奏でる屋台の行列。地域の子どもたちも参加しました。3. 長浜八幡宮に参拝したあとは曳山博物館の広場に戻り、振る舞い酒や餅まきなどをして大いに盛り上がりしました。

毎年全基が勢ぞろいしていた大正時代の始めごろまでは「にぎやかな囃子が琵琶湖の対岸まで聞こえた」ともいわれていた曳山長浜祭。時代の流れとともに少しずつ変化しながらも、地域の人々によって連綿と受け継がれてきました。「これまで祭りを続けてこられたのも、地域の皆さんに支えられてきたおかげ」と長浜曳山文化協



小池さん 長浜曳山文化協会の主査、小池充さん。「今年もガイドブックを全戸配布しますので、ご持参いただけると祭りがより楽しめると思います」



家森さん 長浜曳山文化協会伝承委員会の委員長、家森裕雄さん。「先人から引き継がれてきた祭りの伝統をこれからも大切に守っていきたい」と前を見据えます

<Information>

曳山長浜祭
日時:4月9日~4月16日
場所:長浜八幡宮(長浜市宮前町13-55)
ほか長浜市街地一帯
問い合わせ:0749-65-3300
(長浜曳山文化協会)

詳細は長浜市曳山博物館公式サイト
(http://www.nagahama-hikiyama.or.jp/)を確認